

8・9月ロシマ平和へのニュース 2011

久野成章

一九七八年の反原発集会の流れを汲んでいる「8・6ヒロシマ平和へのつどい2011（代表／田中利幸）」は、「ヒロシマ・ナガサキからフクシマまで 原発も核兵器もない世界へ！」と題して、いわき市議の佐藤和良さん、長崎の平野伸人さんを迎える。二〇一五年核被害者世界大会広島開催を考える（八月五日（金）一七時半）。その後、二〇時から脱原発全国交流会。

八月六日の中国電力本社までのいつものデモは、「原発・核兵器なしで暮らしたい人々」という新たな枠組みの主体で「8・6ヒロシマNON MOREヒバクシャ みんなでウォーク——原発も核兵器もない世界へ」と銘打って取り組む（九時に原爆ドーム前を出発）。

午後の集会は、「核兵器廃絶をめざすヒロシマの会」「ウラン兵器禁止を求める国際連合・ジャパン（ICBUW-Japan）」「原発・核兵器なしで暮らしたい人々」「ECRR市民研究会・広島」の四者共催で「『内部ヒバク』から問い直す核／原子力体制—ヒロシマ・イラク・フクシマ—」との構えだ。

ICRP（国際放射線防護委員会）の防護基準が、国際原子力機関（IAEA）、世界保健機構（WHO）、全米科学アカデミー、各国の放射線防護の規制当局を支配している。この基準が市民を被曝させている根源。ヒロシマベースには様々な重大な不備がある。高線量から低線量への外挿、急性被ばくから慢性被ばくへの外挿、外部被ばくから内部被ばくへの外挿、戦争生存者からの外挿など。考え方、モデルが全く違うECRR（欧州放射線リスク委員会）の防護基準は、年間公衆被曝線量を年間〇・一ミリシーベルト（ICRPの最低値の1/10）と云っている。

結局、我々は、広島・長崎・ビキニの体験を持ちながらも、放射線の脅威を軽んじてきたのである。「フクシマ」に直面し、「人類最初の核攻

撃による被爆地」を標榜し、「被爆者の悲惨」を世界に訴えながら、放射線に対する正しい理解への努力とその普及を全く怠ってきたことを後悔の念をもつて自己批判せざるを得ない。

（く・なるあき／8・6ヒロシマ平和へのつどい2011、核兵器廃絶をめざすヒロシマの会、原発 核兵器なしで暮らしたい人々、ECRR市民研究会・広島）

* * *

8・9月ロシマ平和へのニュース2011 ヒロシマ・ナガサキから福島まで——原発も核兵器もない世界へ

日時：8月5日 17:30～

報告：田中利幸（基調提起）、木原省治（広島）、平野伸人（長崎）、

佐藤和良（福島）

場所 広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5階研修室ABC

参加費 1000円

主催：同実行委員会

問い合わせは次です。

電話：090-4740-4608 FAX：082-297-7145

Eメール：kununaruaki@hotmail.com

HP：http://www.d6.dion.ne.jp/~knaruaki/